

※申請者名：津軽みらい農業協同組合、品目：りんご

1. 輸出における現状と課題

【現状】

輸出に取り組んだのは国内市場の価格が低迷していた平成14年頃で、台湾がW T Oへの加盟したことを契機に始まり、近年は円安の影響で国内市場より販売価格が安定しているためりんご輸出が増加している。青森県産りんごは、アジア諸国では高級品として百貨店などで取り扱われ、購買層は高所得者に限られていたが、中所得者層に対して「高品質りんご」+「Easy to Buy」をコンセプトにした小玉りんごのブランド「SUGOI」を販売し大きな成果をあげてきた。

品 種	令和4年度（t）	令和5年度（t）
早生種（つがる、きおう等）	3,273.1	2,085.3
早生ふじ系	2,246.4	1,453.1
トキ	1,285.0	931.5
ジョナゴールド	1,506.9	891.2
ぐんま名月	993.8	1,015.2
王林	2,635.7	2,072.2
サンふじ	20,660.7	14,399.0
有袋ふじ	1,293.3	770.9
その他	3,292.1	2,294.7
合 計	37,187.0	25,913.1

《輸出実績》

輸出国・地域	令和3年度（t）	令和4年度（t）	令和5年度（t）
台湾	3,401.8	3,876.4	3,350.6
香港	800.2	1,416.9	969.5
シンガポール	68.5	34.5	77.3
マレーシア	3.4	13.0	17.2
タイ	351.7	198.0	31.2
ベトナム	88.7	103.9	71.8
インドネシア	0	1.9	0
インド	0	0	0.1
合 計	4,714.3	5,644.6	4,517.7
販売額計	24億円	26億円	32億円

輸出事業計画

※申請者名：津軽みらい農業協同組合、品目：りんご

【課題】

〈生産・製造〉

- ①生産者の高齢化により、生産量と品質は低下しており、従来の生産方式では安定供給を確保できないため、生産性の高い効率的な栽培方法が求められている。
- ②輸出先国の嗜好変化に対して、従来の「ふじ」を中心とした作付け体系では迅速な対応が難しく、黄色系品種や蜜入りしやすい品種の導入が必要である。
- ③他国や他の国内産地と差別化した、オリジナルブランドによる販売力強化が求められる。
- ④近年の温暖化等により、既存の品種では日焼け果、自然落果、着色不良等の品質低下が多く発生している。品質の優位性を確保するために、これらに対応する品種や栽培方法が求められる。
- ⑤今後も検疫条件に対応した栽培・防除体系の整備が必要である。
- ⑥高密度栽培に適合するM9台と言われる台木の不足により高密度栽培が進まない現実がある。理由としては、受注生産、高単価、優良台木の不足、台木の生産時間等の課題がある。

〈物流〉

現状は、産地から輸出港である京浜港まで陸上輸送、京浜港からはコンテナ外航船で輸出先まで運ぶ輸送手段となっている。しかし、令和6年4月の働き方改革関連法施行によりトラックドライバーの時間外労働の上限が適用されたことによってトラック輸送にかかる時間が増加しており、今まで以上に現地到着後の鮮度保持を考慮する必要がある。

〈販売〉

中秋節や春節以外のニーズの把握が必要。特にトキや王林等の黄色系品種は海外の取引価格が高いため、新たな輸出先、販売先のルート開発が必要とされる。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組】

〈生産・製造〉

- ①昨今の担い手不足や労働力不足対策として、慣行栽培から、省力化を目指して高密度栽培等の省力栽培を導入し、着色管理、薬剤散布、収穫等一連の作業を機械化することで、輸出先国のニーズに見合う数量を確保する。
- ②輸出先国の嗜好にあった品種の導入を図るため、高密度栽培等で早期成園化を図る。
- ③海外での育成者権と商標権を取得したオリジナルブランドで差別化し、輸出先国での優位販売を図る。
- ④温暖化等に対応するため、国内品種、海外品種の販売先国での評価と生産性の調査を行い、対応できる品種の導入を検討する。
- ⑤検疫条件に対応した圃場の整備と防除体系の確立を図る。
- ⑥みらいりんご輸出拡大生産推進協議会の参画者である原田種苗の技術主導により、慢性的な台木不足の解消を図る。また、青森県の寒冷地に適合する高密度植台木の調査及び試験栽培を実施する。

〈物流〉

長期保存技術（CA貯蔵）と鮮度保持処理剤（1-MCP処理）により、更なる長期保存の実現を図る。

2024年の流通改革への対応と環境に配慮した輸送方法の検証が必要となっており、現在の輸出港である京浜港までのトラック輸送を、コンテナ内航船の活用を実証するなどして、物流の課題に対応していく。

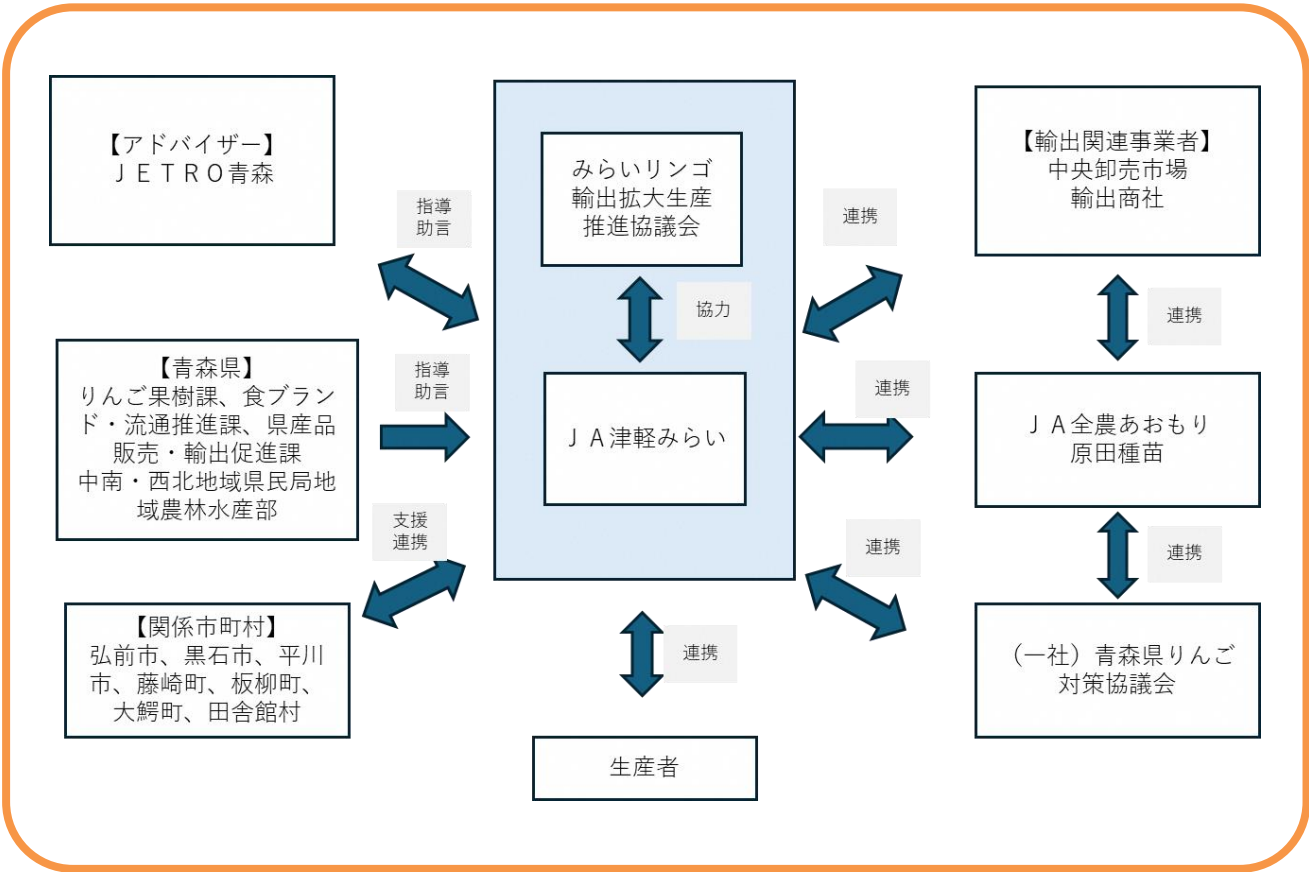
〈販売〉

中秋節や春節以外の販売促進を図るため、JETRO青森や青森県りんご対策協議会、輸出商社等の関係機関と連携して、輸出先国で変動する嗜好に対応するため現地でのマーケティング調査やPR活動を実施し、新たな輸出先や販売ルートを開拓していく。

輸出事業計画

※申請者名：津軽みらい農業協同組合、品目：りんご

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出品目 りんご	現状 令和5年度	目標 令和8年度
輸出額（千円）	3,200,000	3,422,300
輸出量（kg）	4,517,700	4,889,000
輸出先国	台湾、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、インド	台湾、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、インド